

拠点名称：グローバルエイジングセンター

国境と学問領域をこえた人類の課題への挑戦—つくばから世界への発信拠点

拠点代表者：医学医療系・教授・田宮菜奈子

研究拠点形成計画の概要

現在、高齢化はもはや先進国のみでなく地球規模の緊急課題である。2050年には、世界15億人の高齢者のうち12億人が途上国の高齢者となる（UNFPA2012）。こうした状況下、世界の超高齢化のフロンランナーである我が国の経験に、世界が着目し始めた。代表者・田宮が主著者として取り組んだ『ラセット』日本特集号「国民皆保険達成から50年」は内外から反響があり、その着目度を示すものである。また、本学のドイツ介護保険の専門家である法学の本澤とともに厚生労働科学費補助金による「グローバルエイジングへの国境なき挑戦—経験の共有と尊重を支える日本発学際ネットワークによる提言に関する研究」を進めており、これを機に社会保障人口問題研究所、UNFPA、ユタ大学、JICAなどと共同研究を開始している。

これらの学術的実績をもとに、本研究拠点は、高齢者一人ひとりの健康や幸福を追及するミクロな視点と、それを支える社会政策の在り方というマクロな視点、そして、各国独特の文化的政治的背景を尊重した政策を分析することにより、国境を越えて経験を共有する国際的かつ学際的な研究・教育拠点を本学に築き、つくばから世界に発信することを目的としている。副次的組織として、我が国の介護保険制度評価における実績をもとに、政策立案のための基礎データ、根拠を学術論文成果として出すことに特化したヘルスサービスリサーチ部門、その結果を踏まえた実際の政策提言を担う社会政策部門を設け、学内の各研究組織、国内外の大学・研究機関、医療・福祉・介護施設や行政組織との連携を構築し、グローバルエイジング教育研究ネットワークを形成する。

研究拠点形成に係る研究の概要

本研究拠点は、i)高齢先進国である我が国の経験、ii)欧米の介護先進国の現状および課題、iii)高齢化が進行する途上国の介護の現状と課題を学際的に分析することにより、高齢者対策の経験を共有する学際ネットワークを整備することを目的とする。上述の3つを縦軸に、また拠点メンバーの専門領域を横軸に据え、学際的な視点から研究を推進する。また、海外のエイジングセンターとの交流、大学院生・若手研究者のインターンシップ、留学、定期的なプロジェクトミーティング、留学生との討論、国際シンポジウムを通じて、日本の果たすべき役割および各国の取るべき方向を考察し、実証分析に基づく政策提言を行う。また、これらの研究の成果をニュースレターおよび本拠点のHPを通じてつくばから世界に発信する予定である。

〈研究拠点形成に係る研究の概念図〉

